

特集

# フィンテック

## 編集にあたって —フィンテックの概念—

高橋郁夫（弁護士 駒澤総合法律事務所）

フィンテックという用語が人々の注目を集めている。新刊書、雑誌をみても、「フィンテック」という言葉が巷に溢れている。また、我が国の政府においても、たとえば、経済産業省が「産業・金融・ITの融合に関する研究会（FinTech）」を開催し、また、委託研究として、「ブロックチェーン技術を利用したサービスに関する国内外動向調査」を公表している<sup>☆1</sup>。金融審議会は、「決済業務等の高度化に関するワーキング・グループ報告～決済高度化に向けた戦略的取り組み～」を公表しており、また、日本銀行は、「ITを活用した金融の高度化に関するワークショップ報告書」を公表している<sup>☆2</sup>。これらをもみても明らかなように、現在、きわめて注目が集まっているといえる。

これだけ注目を集めているにもかかわらず、フィンテックという用語は現在きわめて曖昧に用いられている。そこでまずフィンテックとは何を指すのか、を考えてみたい。フィンテックに関する書籍・報告書において、一概にフィンテックとして議論されている範囲は、きわめて広い。それゆえに論者が、フィンテックといったときに、そのフィンテックという用語は、何を議論の土俵としているの

かということを常に意識しながら議論を検討する必要がある。ここではまず、フィンテックを「経済活動に関してIT技術を利用し、その有用性・利用の容易性を増やそうとするプロセス」として幅広く捉えてみよう。経済的な情報の識別・測定・伝達のプロセスを考え、その当事者間のギャップを技術の利用により埋めていこうというのが、フィンテックということになる。

かかるプロセスは、図-1のように分けることができるものと考えられる。図の左側にはビジネス構造における各分野を、右側にはそれに対応するフィンテックのアプリケーションを示している。

これらの各分野に影響を与えつつある代表的なIT技術としては、「FinTech Futures」<sup>☆3</sup>の報告書によると、①ブロックチェーン（およびP2P）、②モバイル、③人工知能、④ビッグデータを挙げることができる。これらの技術には、どのような有用性・利便性が現れるのか。これらの現れ方は、上述の利用市場ごとにことなってくるように思われる。コストの削減をもたらすこともあるだろうし、また、処理時間の削減をもたらすこともある。その上に、カスタマイズされたきめ細かなサービスも可能になる。

☆1 「ブロックチェーン技術を利用したサービスに関する国内外動向調査」  
(<http://www.meti.go.jp/press/2016/04/20160428003/20160428003-2.pdf>)

☆2 「決済業務等の高度化に関するワーキング・グループ報告～決済高度化に向けた戦略的取り組み～」([http://www.fsa.go.jp/singi/singi\\_kinyu/tosin/20151222-2/01.pdf](http://www.fsa.go.jp/singi/singi_kinyu/tosin/20151222-2/01.pdf))、「ITを活用した金融の高度化に関するワークショップ報告書」([https://www.boj.or.jp/announcements/release\\_2015/data/rel151021a.pdf](https://www.boj.or.jp/announcements/release_2015/data/rel151021a.pdf))

☆3 Government Office for Science “FinTech Futures : The UK as a World Leader in Financial Technologies” ([https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment\\_data/file/413095/gs-15-3-fintech-futures.pdf](https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/413095/gs-15-3-fintech-futures.pdf))

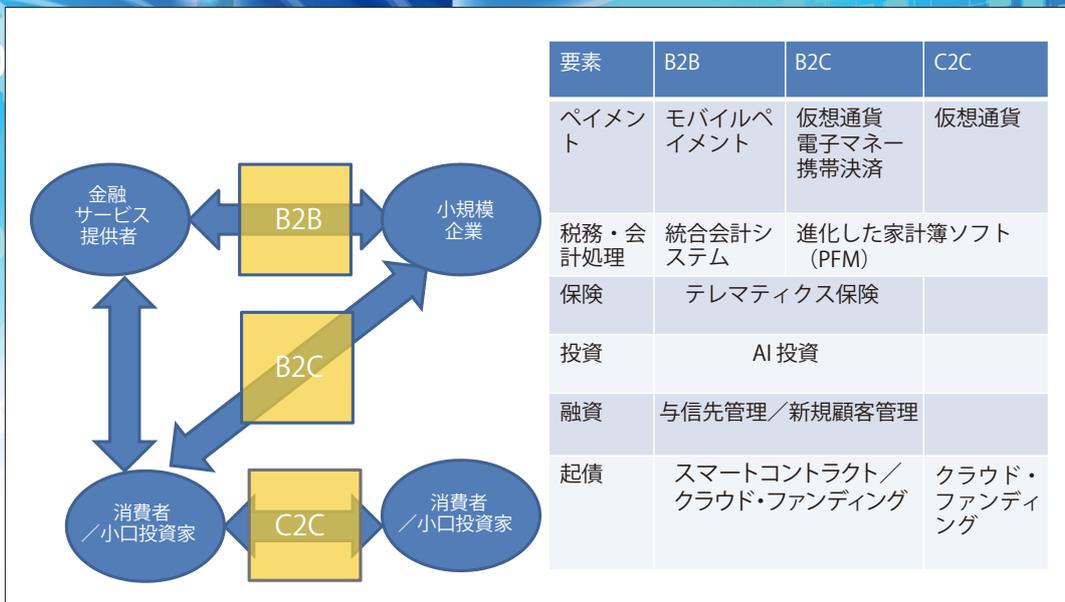


図-1 フィンテックのフィールド/プレーヤ

## 各論文の位置付け

さて、この特集では、現在注目が集まっているフィンテックに関し、情報処理技術者として最低限知っておくべき基礎を解説し、そのさまざまな波及効果の中で、技術の及ぼす影響といった観点から、そのメリット・デメリット・それに対する技術的・社会的な対応について、明らかにしていこうというものである。

そこでまず注目が集まっているブロックチェーンとフィンテックの関係を論じる必要がある。「1. なぜいまフィンテックとブロックチェーンが注目され、これからどう社会を動かすのか」(楠 正憲)では、なぜフィンテックにおいてブロックチェーンが注目されるのか、という点について論じている。

特に注目すべき技術であるブロックチェーンに絞って、その最新動向を確認しておくことは、フィンテックの理解に欠かせない。「2. 透明性と公平性を提供するブロックチェーン技術」(佐古和恵)が、この点に注目し、ブロックチェーン技術の最新動向について論じる。

フィンテックはブロックチェーンだけでなく、多種多様な技術を包含しながらフィンテックという大きな流れを生み出している。そのフィンテックという大きなムーブメントの全体像を理解するために、これまでにどのようなビジネスモデルが提案され、試され、今後拡大しようとしているかを確認する必要がある。「3. フィンテックスタートアップのビジネスモデル」(藤川真一)ではフィンテックのビジネスの発展の経緯をビジネスモデルの観点から論じる。

では、これらの技術の進展は、社会システムの中で

はどのような問題点を引き起こし得るのか。言い換えると、これらのフィンテックの進展によって発生するリスクとしては、どのようなものがあるのか、についても議論が必要と考えられる。このように考えたときに、発生するリスクは、金融・経済活動から発生するリスクと技術から発生するリスクとがある。しかも、これらのリスクは、情報面におけるリスク(情報の非対称性)と客観的なリスク(発行主体の健全性の阻害・脆弱性による金融取引の安全性侵害など)に分けて考察することができることになろう。

ここまで分析ができれば、社会的には、これらのイノベーションに対する態度を決めることができる。経済活動が、有用なもの、利便なものになることを否定する人はいないだろう。そうだとすると、上記リスクを正確に把握して、合理的なリスク管理手段をとることが望ましいものとなる。「4. フィンテックの法と制度」(高橋郁夫)においてこれらのリスクに対する法的な対応を概観する。

本誌12月号(Vol.57 No.12)ではブロックチェーンを主題とした特集を予定している。基礎的解説、ビットコイン解説、技術者対談、有力プラットフォーム紹介等を含め解説する予定である。

現在注目を集めつつも全貌を理解しづらくなっている、フィンテックをめぐる動向を理解する上で、本特集が「情報処理」読者だけでなく広く情報技術者の皆さまの理解の一助となることを願っている。

(2016年5月19日)